環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果報告会　発表資料

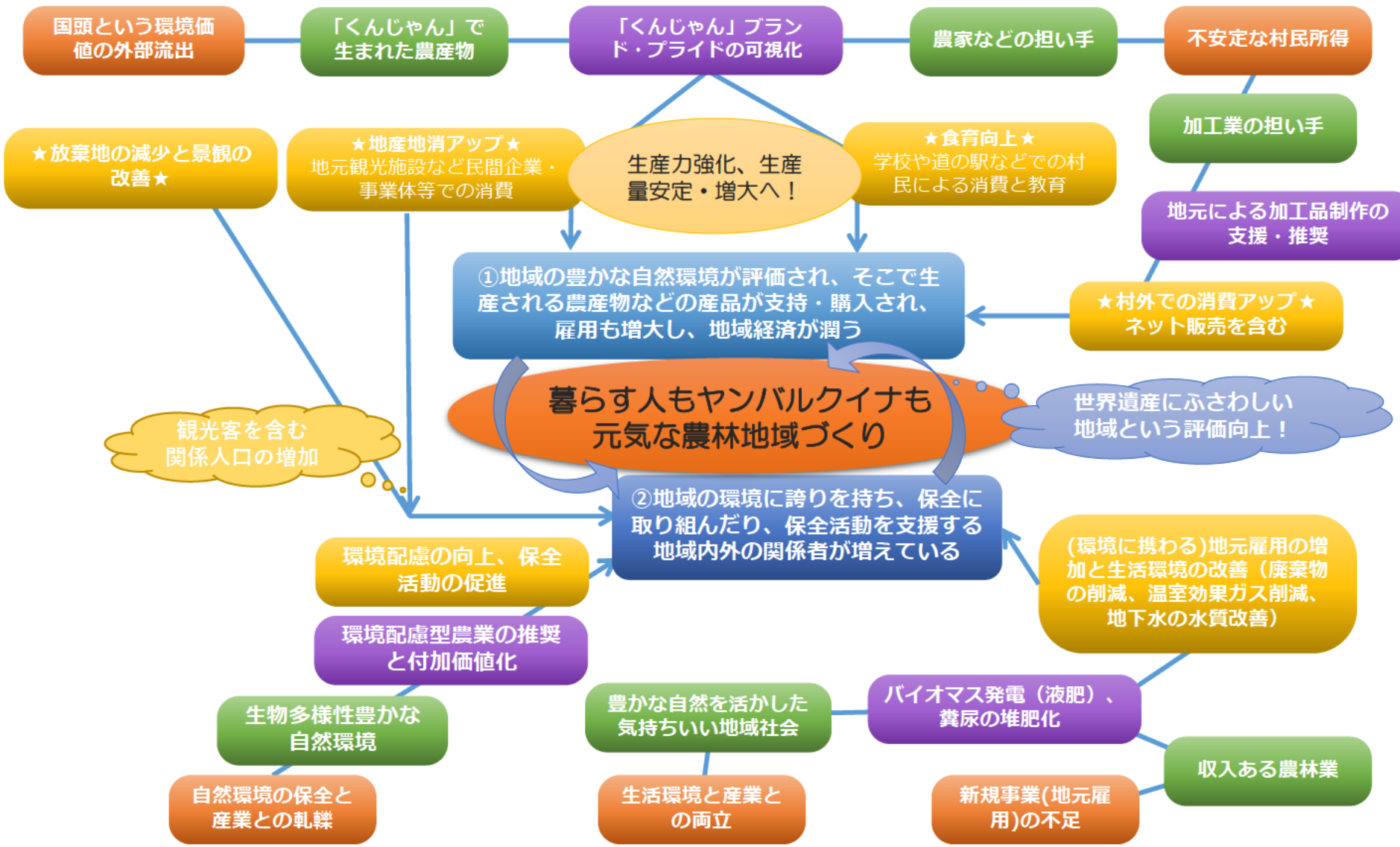
活動におけるテーマ

豊かな自然を活かした地域産物の付加価値化と地産地消の推進

活動団体名：国頭村役場
活動地域　：国頭村内

やんばるふんばる
国頭村
KUNIGAMISON
沖縄県

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域のビジョンを実現するための成果指標

「暮らす人もヤンバルクイナも元気な農林地域づくり」を目指して
（１）地域の豊かな自然環境が評価され、そこで生産される農産物などの産品が支持・購入され、地域経済が潤う
（２）地域の環境に誇りを持ち、保全に取り組んだり、保全活動を支援する地域内外の関係者が増えるような施策を展開していく！

	短期目標	長期目標
環境	農家さんの環境配慮に対する意識醸成（関係機関とともに先進地視察等の積み重ね）	環境配慮型農業を推進する農家さんの増加（畜産糞尿等を用いた堆肥活用など資源循環達成）
	希少種による農業被害に関する正確な情報収集及び対策検討	世界自然遺産地域に値する農家さんの増加（防鳥ネットの改良など対策の実施・向上）
経済	地産地消を推進する地元消費事業者の増加（地域特産品のブランド化、出荷量の可視化）	地元内消費量の増加・食糧自給率の向上
	第6次産業事業者の出荷量の増加（地域特産品のブランド化、出荷量の可視化）	地元内消費量の増加・新規雇用の創出
社会	地産地消推進という村政に関する村内浸透（ブランド化されたロゴ等の作成・配布）	村民・地域教育機関・福祉機関による地域特産品の選択
		地産地消推進という村政に関する村内浸透（県と連携した村条例の制定）

コアとなる事業の概要２つ（事業のタネ）

1	事業の名称	**地産地消の向上**	
	事業の概要	豊かな自然を有する「国頭村（くんじゃん）」の農産物に対し、世界自然遺産候補地に値する「やんばるの森」の産品であることをヤンバルクイナをシンボルとしたロゴマーク等で表すことで、ブランド化・付加価値化する。将来的に、村内外における需要供給の安定化により、一大産業である第1次産業の生産力及び生産量を増大させ、持続的な経済順化を促進する。特に、村内での消費向上は、消費者と生産者との顔が見える需要供給関係の構築、食糧自給率や食育の向上に繋がることから、効果的な需要の安定化を目指すために優先事業と考える。	想定される課題・ボトルネック 第6次産業化を目指す事業者が出現しているが、付加価値化するためのロゴ等が決まっていない。 生産量が少ないにも関わらず、供給可能時期・量について情報発信がされていない。

ブランド化
（ロゴ制作・可視化）

地産地消
（消費事業者の増加等）

コアとなる事業の概要２つ（事業のタネ）

地産地消協議会の再興

活動目的：

生産者と消費者の相互理解による地産地消（地域で生産し、地域で消費すること）の取組みを通じて、国頭村内の新鮮で安全・安心な食材の利用促進を図り、村民が健康で豊かな食生活を実現するとともに、地域の農林水産業の振興を図ること。

◆推進会議の開催(令和元年度第1回)　令和元年12月19日

要綱を改正、会長を経済課長→副村長とし、運営の強化を図った。

委員：経済課長、企画商工課長、教育課長、村商工会長、村森林組合長、
漁業組合長、JA国頭支店長、村観光物産株式会社社長、
村特産物直売促進協議会長、ｵｸﾏﾌﾟﾗｲﾍﾞｰﾄ&ﾘｿﾞｰﾄ総支配人

◆作業部会の開催(令和元年度第1回)　令和2年1月30日（木）

目的を達成するために必要なことについて調査等を行う為に、各委員の属する団体等から各委員を指名した者により構成する。

コアとなる事業の概要２つ（事業のタネ）

2	事業の名称	**畜産糞尿の堆肥化**	
	事業の概要	畜産糞尿の堆肥化促進により、資源循環の向上のみならず悪臭対策にも繋がり、自然環境が豊かな気持ちの良い生活環境と産業の両立を目指す。国頭村では、地元で生産された安心安全かつ安価な堆肥に対する需要も一定程度あることから、効果的な資源循環となりうるとともに、新規事業の雇用創出にも繋がると考える。	想定される課題・ボトルネック おおよその糞尿排出量等は把握できており、堆肥供給先の目途はつくが、堆肥化事業の採算性が未算定。また、事業の担い手が、行政機関であるべきか、民間との連携による事業展開が妥当なのかが不明確である。

協議会委員とともに先進地視察

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果
（本事業に取り組んで良かったこと）

- 第1次産業の活性化に向けて今後取り組むべき村施策について情報を整理することが出来た。
- 予定通り、関係者が意見交換する場である地産地消推進協議会を再興することが出来た。
- 会議開催当初から、今後の村の施策について概要説明することが出来たため、今後の議論の流れを作りやすくなった。

地域の活動の上での課題

- ブランド化・付加価値化などを効果的に進めるに当たってマーケティングの専門家や、各地域における堆肥化事業の費用対効果調査、堆肥化施設整備による課題解決に関し知見を持つ専門家の巻き込みを進められていない。
- 第1次産業の活性化に向けて今後取り組むべき村施策について明文化できていない。

今後の意気込み

- 需要と供給のバランス確保及び需要の増大を図るためには、まず供給側からの情報発信が不可欠であることを把握し、当該情報は観光客などに対する地元特産のＰＲにも繋がることから、今年後内に、供給可能な種・時期などを数値化した資料及び、特産品のロゴや広告物のデザインの調整を行った。今後、広告物の印刷、地産地消推進事業者を含む各観光施設における設置等の普及啓発を進めたい。
- 現時点の地域版マンダラは今回がver.0.0である。まずは、第１次産業に特化し、現状や課題・今後必要な対策を確認・整理したものであり、今後、協議会内やその他ステークホルダーからの意見を反映しながら、第3次産業との連携を含め総合的な施策を盛り込んだものとする予定である。
- 今後のマンダラのブラッシュアップに向け、地産地消・食育促進や第１次産業と第3次産業の連携強化、環境配慮型農業の推進に係る優良事例の視察や、有識者等からの講演開催など、協議会各関係者が意見交換・意識醸成できる場を増やしていきたい。